

日医総研ワーキングペーパー

日本の医療に関する意識調査
2022 年臨時中間調査

No.466

2022 年 5 月 24 日

キーワード

- ◆ 新型コロナウイルス感染症
- ◆ 生活様式の変化
- ◆ かかりつけ医
- ◆ 精神的不調
- ◆ 受診抑制
- ◆ オンライン診療

ポイント

- 国民の医療に対する意識を継続的に理解する「国民の医療に関する意識調査」を2020年7月に実施したが、中間年である2022年3月に臨時中間調査を実施し、コロナ禍の中での生活とかかりつけ医への意識の変化を把握した。
- 第7回調査で示されたコロナ禍での日常生活や仕事のやり方等の変化は続いており、特に、若い世代でストレスや精神的不調が増加していた。精神的不調で専門家に相談したいと考える人の割合は、20代女性の24.5%、30代女性の32.3%にのぼった。
- 医療機関の受診抑制については、普段からがん検診・健診を受けている人のうち、コロナ前に比べて受診を減らした人は12.2%であった。受診回数を減らした人は女性、小都市在住者、運動不足で体の不調がある人が多いことが判明した。さらに約2割の国民は、医療機関における通常医療の制限によって、手術や処置が先延ばしになったとしていた。
- 一方、コロナ対応でかかりつけ医の役割の重要性が認識される中、かかりつけ医がいると回答した人の割合は55.7%で、過去調査から変化がみられなかった。かかりつけ医がいないがいるとよいと思っている人の71.1%は情報が不足していると回答し、地域住民が必要とする情報を分かりやすく伝えることが求められている。調査からは得意分野、連携医療機関、診療実績なども知りたい人が高い割合であることが判明した。
- 国民にとってのかかりつけ医は、それぞれのニーズに応じた医師をかかりつけ医としており多様である。専門医紹介のほか健康管理や在宅医療、ワクチン接種など多くの役割が期待されており、果たしている機能が適切に情報提供されることが重要である。
- 本中間調査より、精神的不調で専門家への相談を求める人のニーズについて、社会全体で対応していくことの必要性が改めて示された。また、行政や保険者、医療者が健診・検診などの受診勧奨を引き続き行うことの重要性も示唆された。さらに、かかりつけ医については、その機能を果たしつつ情報提供を行うことが重要であり、行政と医師会の対応さらには現場の協力も必要であることが示された。

目次

1. 調査概要.....	4
1.1. 調査概要.....	4
1.2. 回答者属性.....	6
2. コロナ禍における生活意識の変化.....	7
2.1. 生活全般への意識の変化.....	7
2.2. 精神的不調を抱える若者の増加.....	10
2.2.1. 通常医療の受診制限.....	11
2.2.2. 健診・検診の受診頻度.....	14
2.3. コロナ収束後の受診形態.....	16
2.3.1. オンライン診療.....	16
2.3.2. コロナ収束後の医療.....	18
3. かかりつけ医に関する意識.....	19
3.1. かかりつけ医の有無、かかりつけ医としている理由、属性.....	19
3.2. コロナ禍でのかかりつけ医.....	24
3.3. かかりつけ医に関する情報提供.....	26
3.3.1. かかりつけ医に関する情報量の充足度.....	26
3.3.2. かかりつけ医を探す際に必要な情報.....	27
3.3.3. かかりつけ医を持つために必要な情報源.....	28
3.4. かかりつけ医に期待する役割・機能.....	30
4. まとめと考察.....	35
5. その他の結果.....	37
5.1. かかりつけ医に対するイメージ.....	37
5.2. 【参考】母集団との比較.....	38
6. 添付資料 調査票と単純集計.....	40

1. 調査概要

1.1. 調査概要

はじめに

日本医師会では2002年から約3年毎に意識調査を実施し、国民の医療に関する意識の把握を行ってきた。2020年7月には新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ感染症）の感染拡大を踏まえて、「第7回日本の医療に関する意識調査」を実施したが、その後もコロナ禍が続いていることから、設問を絞った臨時中間調査を実施した。

目的

医療制度の検討においては、医療の受け手である国民の意識の理解が極めて重要である。本調査では、新型コロナ感染症の蔓延が国民に与えている医療に関する意識の変化と、かかりつけ医に対する意識を過去調査との比較を行いつつ実態把握することを目的としている。

調査手法

- 調査時期 2022年3月
- 調査対象 全国の20歳以上の男女 1,152人
- 抽出方法 住宅地図データベースを用いた層化3段無作為抽出
- 地点数 157地点 標本数4,000(回収率28.8%)
- 調査方法 面接員による個別面接聴取¹

内容

- 新型コロナ感染症が蔓延する中での国民の意識の変化
- 通常医療の受診
- かかりつけ医の有無とかかりつけ医に関する情報

¹ 調査実施者は一般社団法人中央調査社。調査員はマスク、フェイスシールドを使用し、回答者と十分な距離を取るなどの感染防止対策を取ったうえで実施した。従来通り、調査主体者が日本医師会であることは回答者に伝えていない。対象は、地域と市区町村の人口規模を考慮して全国157地点を無作為に抽出し、各地点において全国の人口構成比に合わせて世帯、対象者を抽出した。

表 1【参考】意識調査の調査実施時期（第 1 回～）

	実施時期	国民
第 1 回調査（報告書 No.50）	2002 年 9 月	N=2,084
第 2 回調査（WP No.137）	2006 年 3 月	N=1,364
第 3 回調査（WP No.180）	2008 年 7 月	N=1,313
第 4 回調査（WP No.260）	2011 年 11 月	N=1,246
第 5 回調査（WP No.331）	2014 年 8 月	N=1,122
第 6 回調査（WP No.384）	2017 年 4 月	N=1,200
第 7 回調査（WP No.448）	2020 年 7 月	N=1,212
2022 年 中間調査(WP No.466)	2022 年 3 月	N=1,152

1.2. 回答者属性

【性別】

	人数	割合
男性	521	45.2
女性	631	54.8
総数	1,152	100.0

【年齢】

	人数	割合
29歳以下	111	9.6
30～39歳	145	12.6
40～49歳	187	16.2
50～59歳	190	16.5
60～69歳	183	15.9
70歳以上	336	29.2
総数	1,152	100.0

【地域】

	人数	割合
北海道	49	4.3
東北	83	7.2
関東・甲信越・北陸	361	31.3
東京	111	9.6
中部	108	9.4
近畿	190	16.5
中国・四国	111	9.6
九州	139	12.1
総数	1,152	100.0

【都市規模】

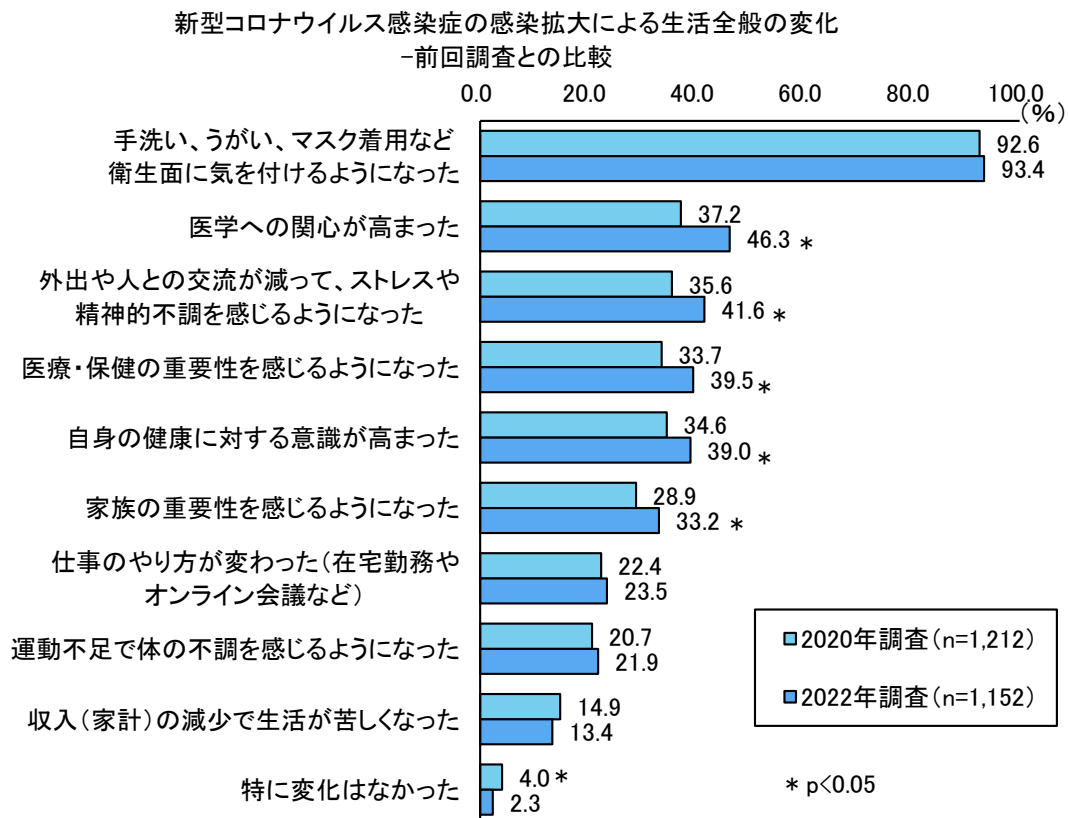
	人数	割合
21大都市	325	28.2
中都市(人口10万以上の市)	465	40.4
小都市(人口10万未満の市)	255	22.1
町村	107	9.3
総数	1,152	100.0

2. コロナ禍における生活意識の変化

2.1. 生活全般への意識の変化

第7回調査（2020年7月）から今回調査（2022年3月）までの約1年半の間も新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の蔓延は続き、第2波から第6波までの感染拡大が繰り返された。前回調査と同じ質問である「新型コロナの流行により、あなたの生活全般にどのような変化が生じましたか」を尋ねると、手洗い、うがい、マスク着用などの衛生面に気を付けるようになった人の割合は9割を超え、自身の健康に対する意識が高まったと感じている人の割合も約4割に達していた。また、感染症やワクチンなど医療への関心の高まり（37.2%→46.3%）や医療・保健の重要性の意識の高まり（33.7%→39.5%）の有意な変化が示された。一方で、外出や人との交流の減少によるストレスを感じている人の割合は35.6%から41.6%に増加していた。

図1 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活全般の変化-前回調査との比較



男性と比較して女性のほうがストレスや精神的不調を感じている人の割合が高く、外出や人との交流の減少によるストレスを感じている人の割合は 46.8%と約半数にのぼった。この傾向は前回調査と同様であり、新型コロナが女性の仕事や子育て等の日常生活に与えた影響が大きいことを示唆している。

図 2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活全般の変化-男女別

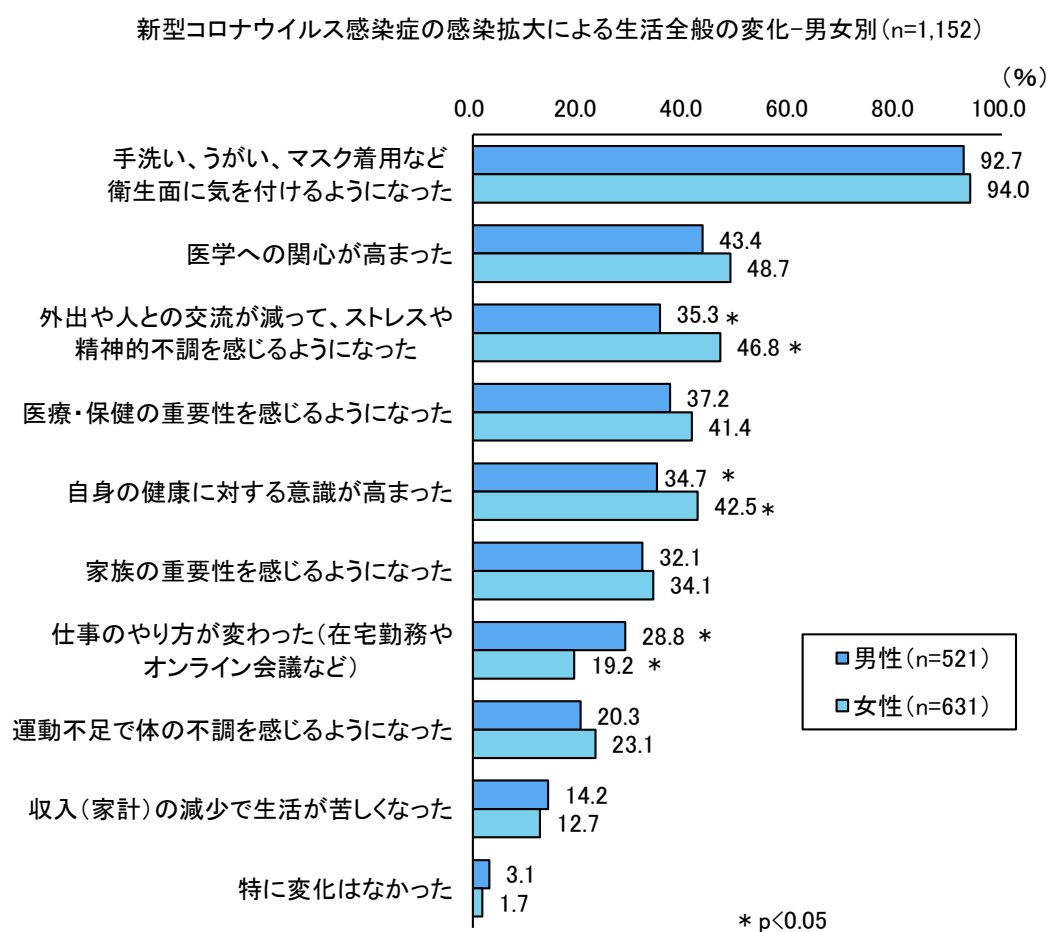
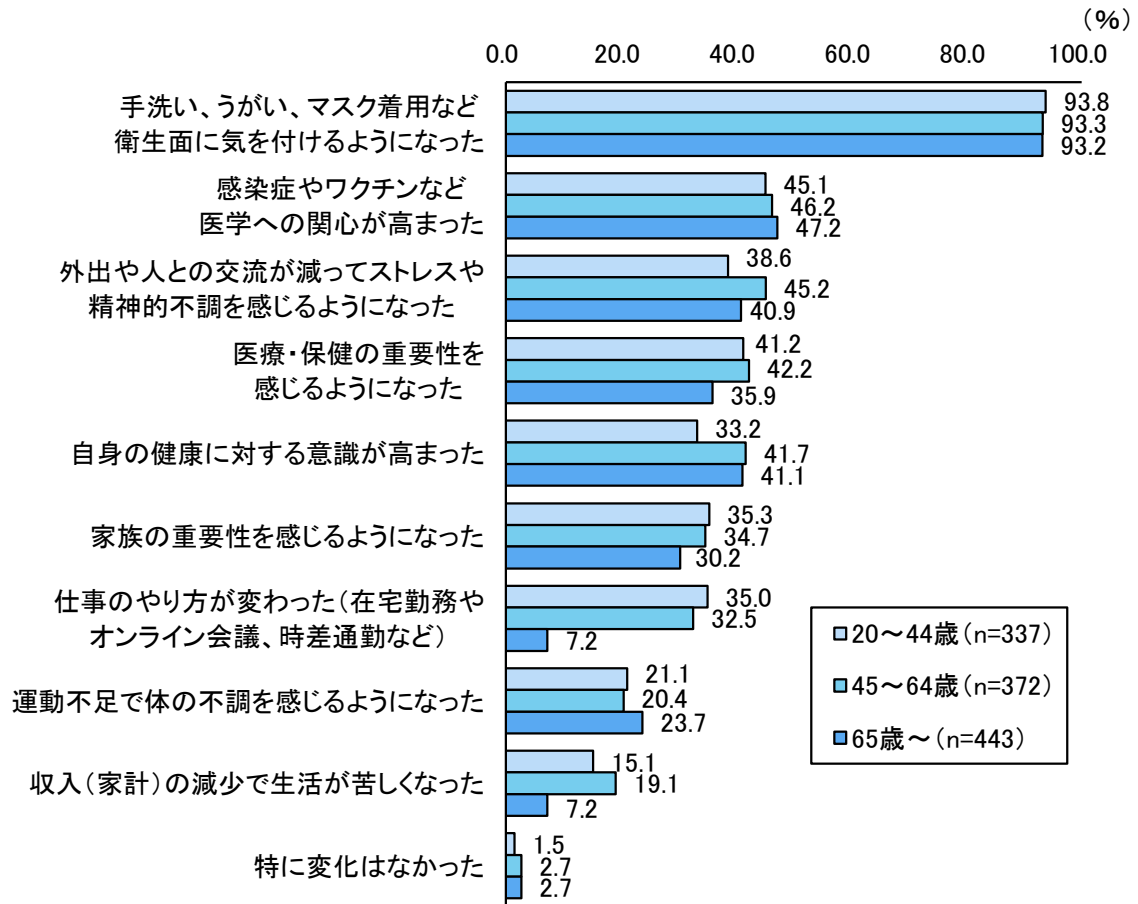


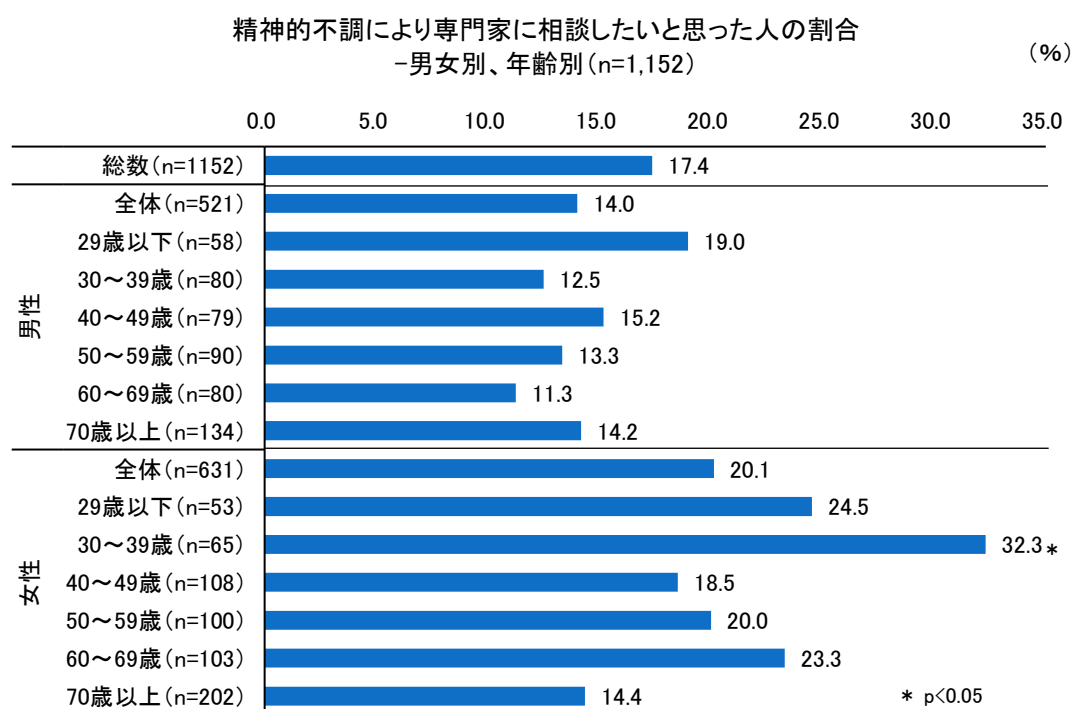
図 3 【参考】新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活全般の変化-年齢別
 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活全般の変化-年齢別 (n=1,152)



2.2. 精神的不調を抱える若者の増加

ストレスが強くて専門家への相談を求める割合も若い女性で高い傾向が示された。「あなたはコロナ禍でひどく気分がふさがちになったり、憂鬱な気持ちが強くなったりして、専門家などに相談したいと思ったことがありましたか」に対して、そのような状況があると回答した人は全体では17.4%（計）であった。男女別では、女性は「ある」（計）が20.1%で男性より高く、そのうち30～39歳の年齢層では32.3%で最も高い割合であった。若い世代での精神的不調に対する対応が引き続き必要とされている。

図4 精神的不調により専門家に相談したいと思った人の割合 - 男女別、年齢別

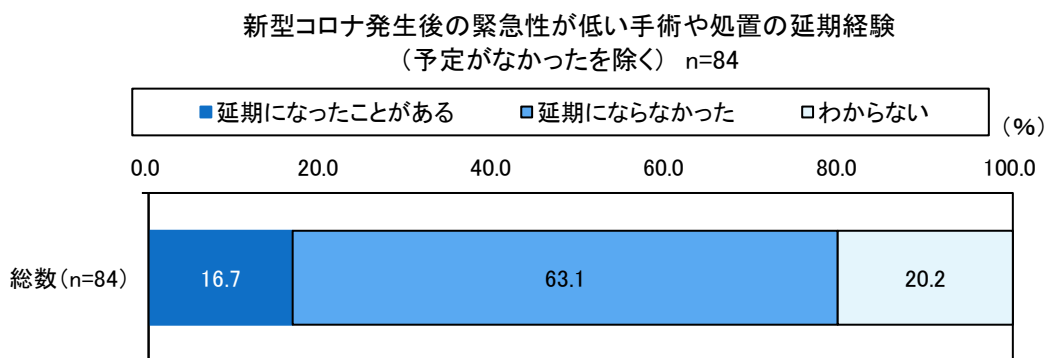


通常医療の制限と健診・検診の受診抑制

2.2.1. 通常医療の受診制限

感染拡大時のコロナ対応のために、通常医療の提供が一部困難になるなど影響を受けた医療機関は多い。全国医学部長病院長会議の2021年の調査では、全国78大学病院のうち19病院で手術の制限が行われていた²。「新型コロナの発生後、緊急性が低い手術や処置が延期になったことがありましたか」に対して、手術や処置の予定があった人のうち16.7%が延期を経験している。さらに、健康状態がよくない人³で手術や処置の予定があった人の間では延期が38.5%に上った。

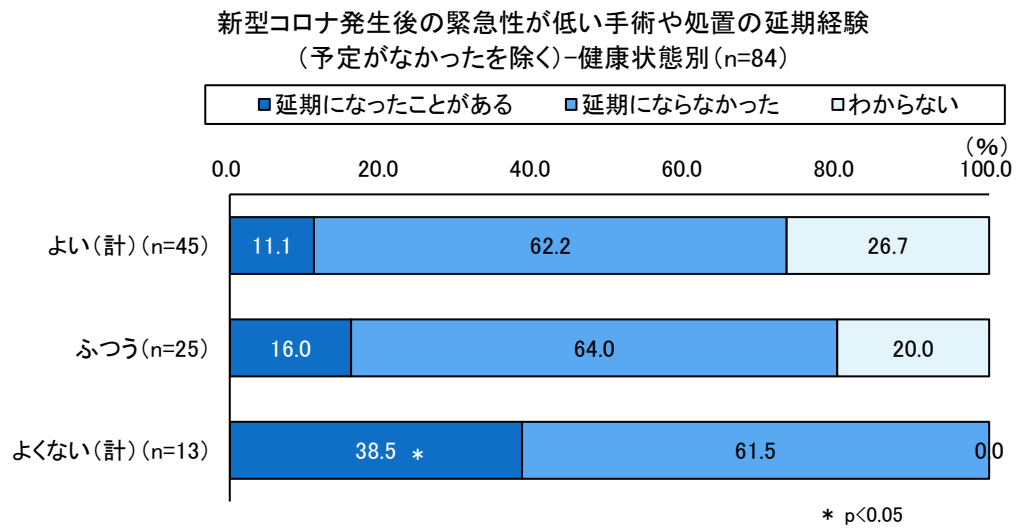
図5 手術や処置の延期（予定がなかった人を除く）



² 全国医学部長病院長会議「新型コロナウイルス感染症第5波が大学病院診療に与える影響（声明）」令和3年8月

³ 本調査では、過去調査の項目に合わせて、健康状態を尋ねている。「よい+まあよい」は全体の61.0%、「ふつう」は31.9%、「あまりよくない+よくない」は6.7%であった。（添付資料 Q15 参照）

図 6 手術や処置の延期（予定がなかった人を除く）-健康状態別



また、「コロナの発生後、以前からかかっていた医療機関などにおいて、今まで通りに外来受診や検査ができなかったり、入院ができなかったりなど通常の医療を受けづらくなったこと」があるかを尋ねると、全体の17.6%が受けづらくなった経験がある（計）と回答した。

図 7 通常医療の受診（全体）

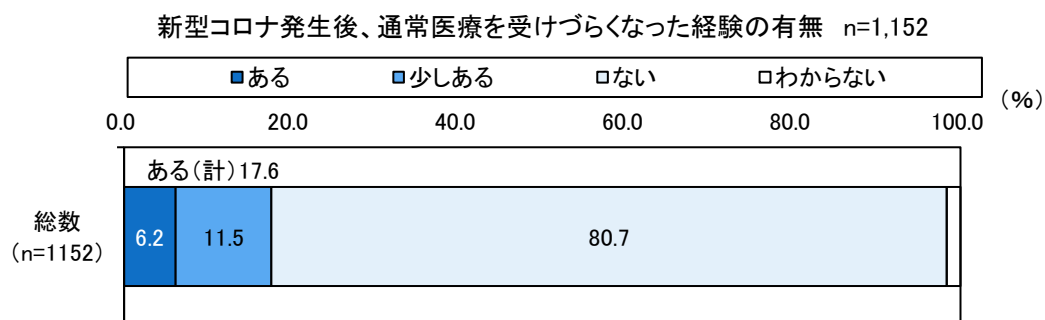
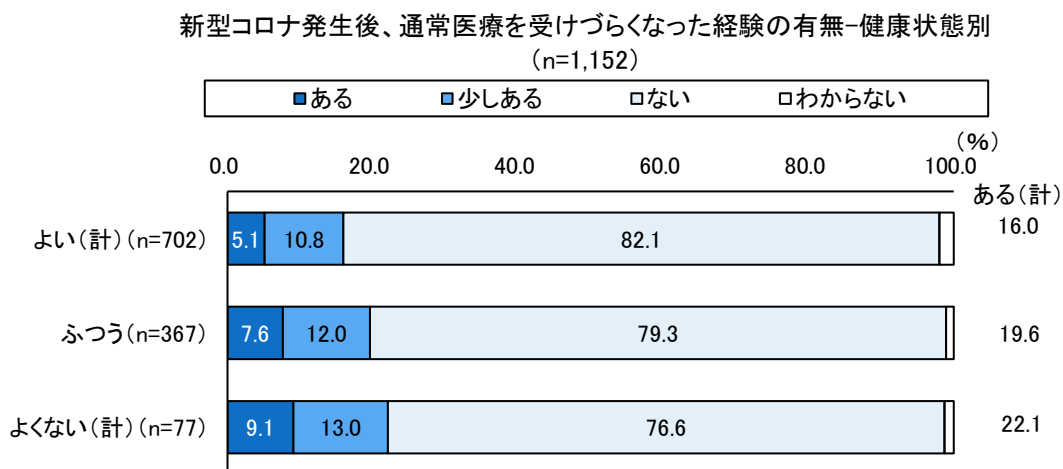


図 8 通常医療の受診 —健康状態別



2.2.2. 健診・検診の受診頻度

コロナ禍で国民の間での受診抑制の意識も続き、健診・検診の受診頻度の低下が見られた。日本対がん協会の調査でも、2021年のがん検診の延べ受診者数は2019年より10.3%下回っていた⁴。「コロナ禍の過去2年間、あなたががん検診や健診を受診した頻度は、コロナ前に比べて変化がありましたか」に対して、全体では9.5%、対象から普段から受診をしない人を除くと12.2%の人が受診の回数を減らしたと回答した。

図9 がん検診や健診の受診頻度の変化（全体）

コロナ禍の2年間のがん検診や健診の受診頻度の変化 n=1,152

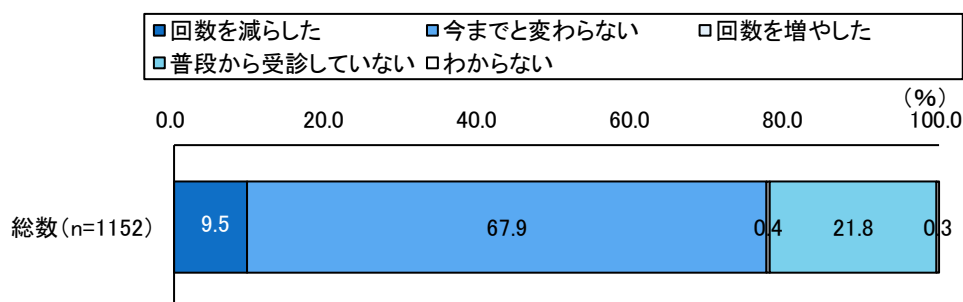
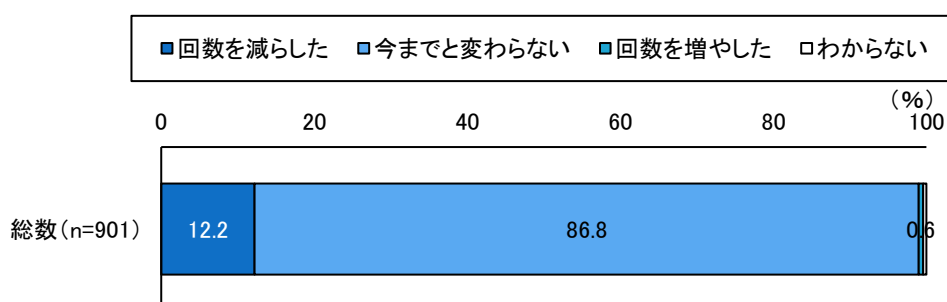


図10 がん検診や健診の受診頻度の変化（普段から受診していない人を除く n=901）

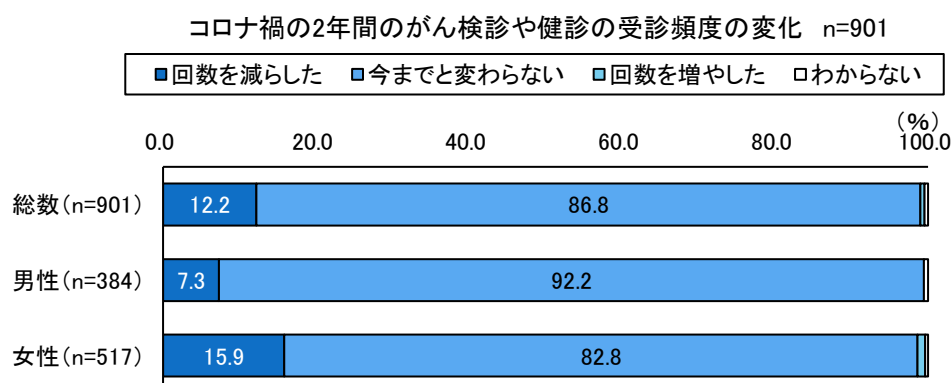
コロナ禍の2年間のがん検診や健診の受診頻度の変化 n=901



⁴ 日本対がん協会「日本対がん協会支部調査」（2022年4月）によると、2021年の延べ受診者数は537万6,513人で、2020年から102万2,161人（23.5%）増えたが、コロナ前の2019年に比べると61万7,885人少なく10.3%減少していた。

男性は7.3%、女性は15.9%で、女性は男性に比べて健診・検診の受診抑制の意識がより強い傾向が示された。

図 11 がん検診や健診の受診頻度の変化（普段から受診していない人を除く） - 男女別



健診・検診の受診を控えた人の属性を分析すると、「小都市（人口10万人未満）」、「女性」、「仕事のやり方が変わった（在宅勤務など）」、「運動不足で体の不調を感じるようになった」人は受診抑制の傾向がより強いことが示された⁵。

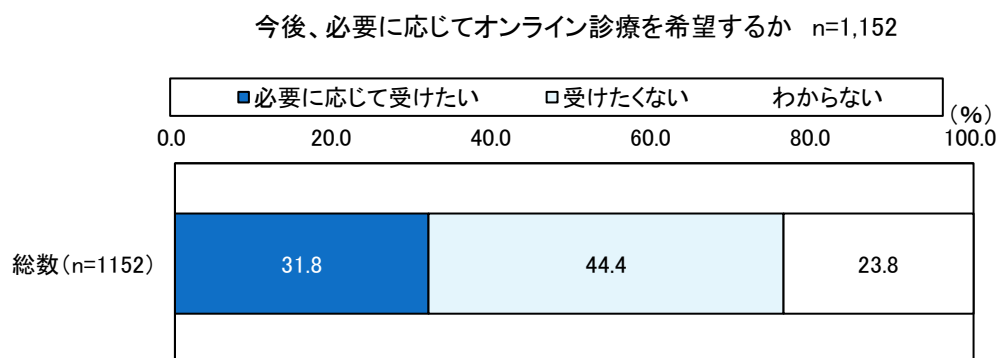
⁵ 「回数を減らした」と選択した人を「1」、それ以外を「0」とした二項ロジスティック回帰分析（強制投入法）を実施した。独立変数は「職業」、「性別」、「年齢」、「都市規模」、「かかりつけ医の有無」、「同居人数」、「健康状態」、「新型コロナの流行による生活全般の変化」とした。

2.3. コロナ収束後の受診形態

2.3.1. オンライン診療

オンライン診療はコロナ禍で時限的特例的に進められ、令和4年度診療報酬改定では新たな診療の形として推進されている。「今後、必要に応じてオンライン診療⁶を受けたいと思いますか」については、全体の31.8%は「必要に応じて受けたい」と回答した。この割合は前回調査の38.1%から低下しており、さまざまなコロナ対策によって、対面診療に対する国民の不安がやや軽減している結果とも推測される。

図 12 オンライン診療の希望（全体）

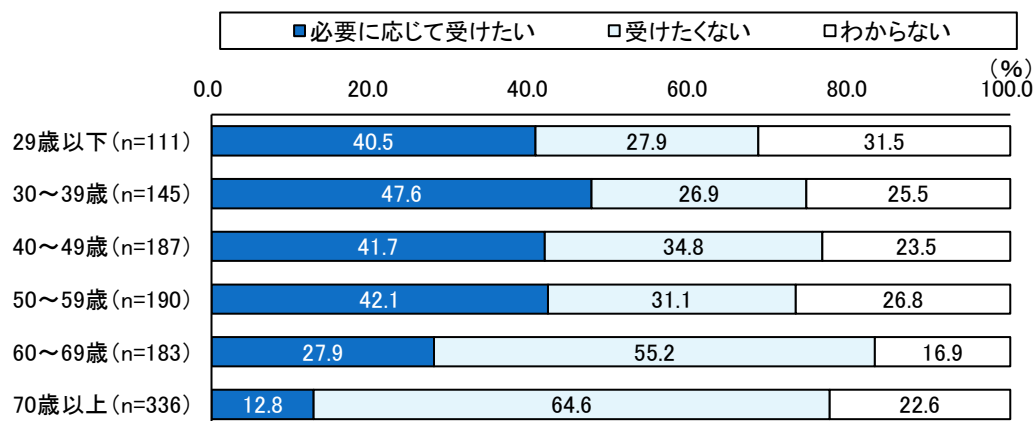


⁶ オンライン診療の定義は、スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器を用いて、インターネットの画面越しに自宅で医師の診察や薬の処方などをリアルタイムで受ける診療とした。

年齢層による違いが大きく、30～39歳の年齢層では47.6%にのぼったが、70歳以上では12.8%であった。

図 13 オンライン診療の希望 - 年齢別

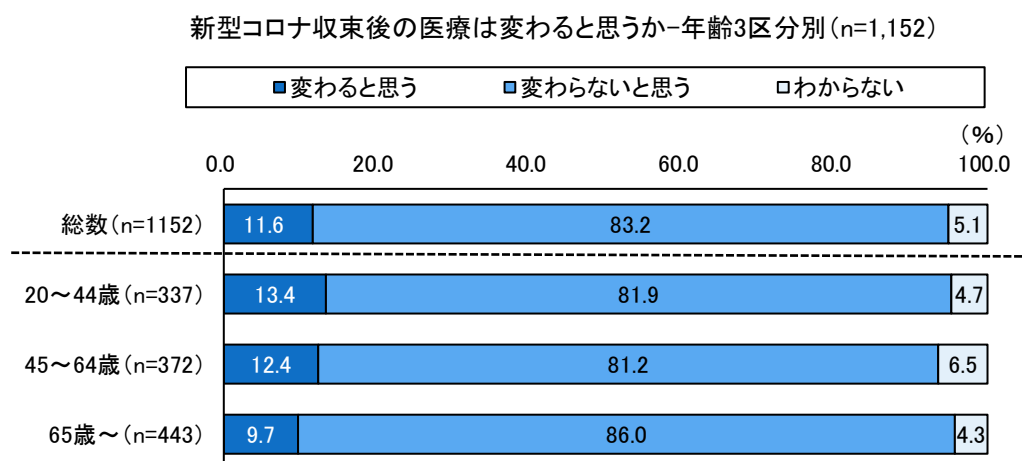
今後、必要に応じてオンライン診療を希望するか-年齢別 n=1,152



2.3.2. コロナ収束後の医療

新型コロナ感染症の感染拡大によって医療機関での受診に対するさまざまな不安が高まり、受診そのものに対する国民の意識が変わる可能性もあると考えられた。本調査の「将来、たとえば1年後から数年後において、新型コロナが収束したとき、あなたご自身の医療機関への受診のしかたや頻度は、新型コロナ前と比べて変わると思いますか」に対して、「変わると思う」と回答した人の割合は11.6%で、全体の1割にとどまった。年代による大きな違いは見られなかった。新型コロナ感染症によって国民の間では感染不安による受診抑制は起こったが、収束後には多くの人がコロナ前と同様の受診行動に戻ることが推測される。

図 14 コロナ収束後の医療 - 年齢別

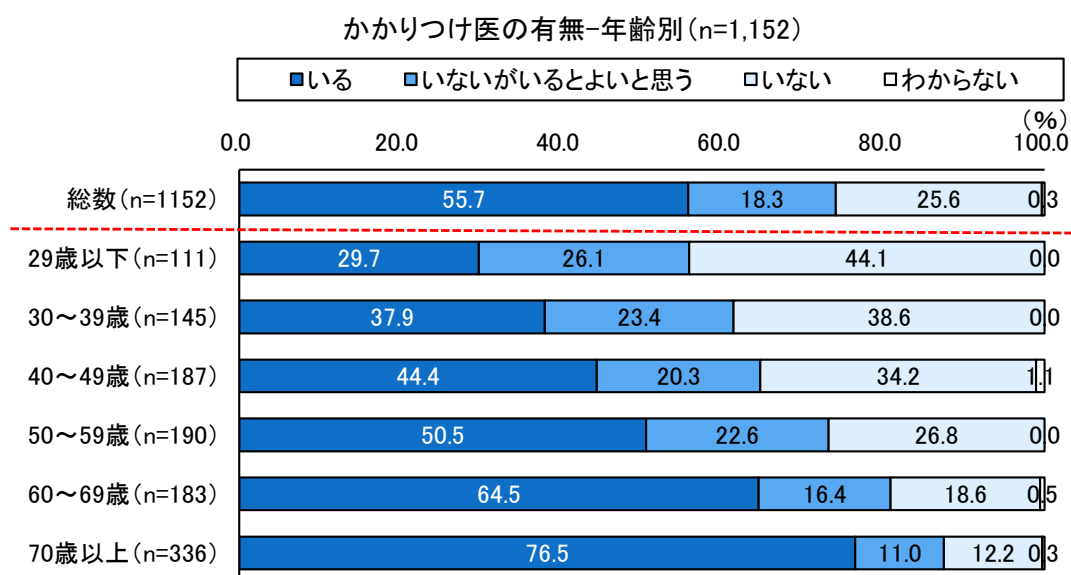


3. かかりつけ医に関する意識

3.1. かかりつけ医の有無、かかりつけ医としている理由、属性

コロナ禍の中、ワクチン接種が進められ、また検査や発熱外来の医療機関としてかかりつけ医に対する関心が高まった。本調査では、かかりつけ医⁷がいると回答した人は全体の55.7%であった。かかりつけ医がいる割合は第7回調査が55.2%、第6回調査が55.9%で、今回調査の割合は過去からほとんど変化がなかった。年齢層別では、従来通り高齢になるほど割合が高くなり、70歳以上ではかかりつけ医を持つ人が76.5%であった。また、かかりつけ医の有無を大都市、町村などの都市規模別にみても、その割合に大きな違いは見られなかった。

図 15 かかりつけ医の有無-年齢別



⁷ ここでは、第6回、第7回調査でのかかりつけ医の定義に合わせて、「何でも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要ときには専門医を紹介でき、身近で頼りになる総合的な能力を有する医師」と説明。

図 16 かかりつけ医の有無⁸の推移 -第3回～

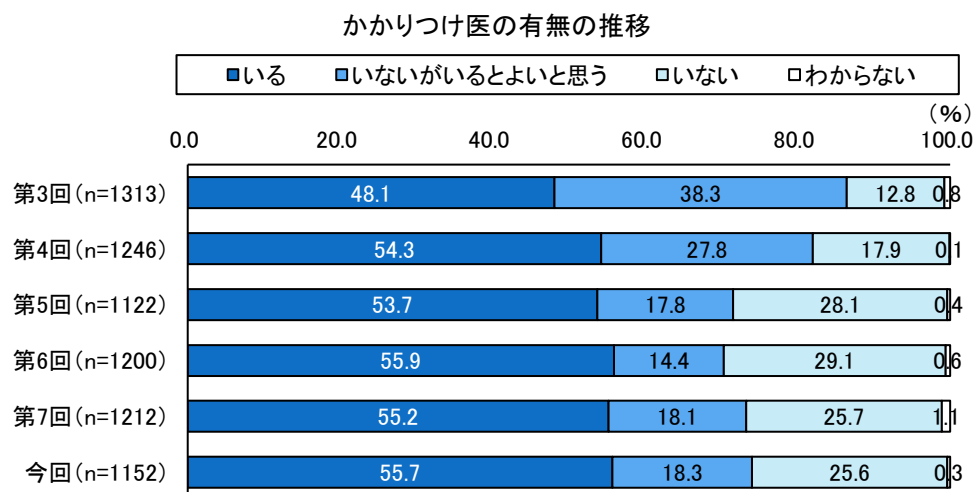
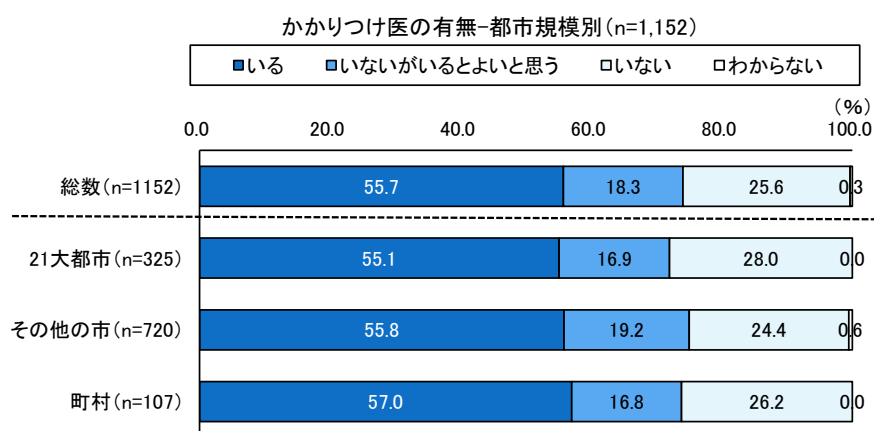


図 17 かかりつけ医の有無-都市規模



なお、かかりつけ医がいない人については、第7回調査でその理由を尋ねているが、最も高い割合は、「あまり病気にかからないので必要ないから」(72.3%)で、次に「その都度、受診する医療機関を選んでいるから」(24.5%)であった⁹。

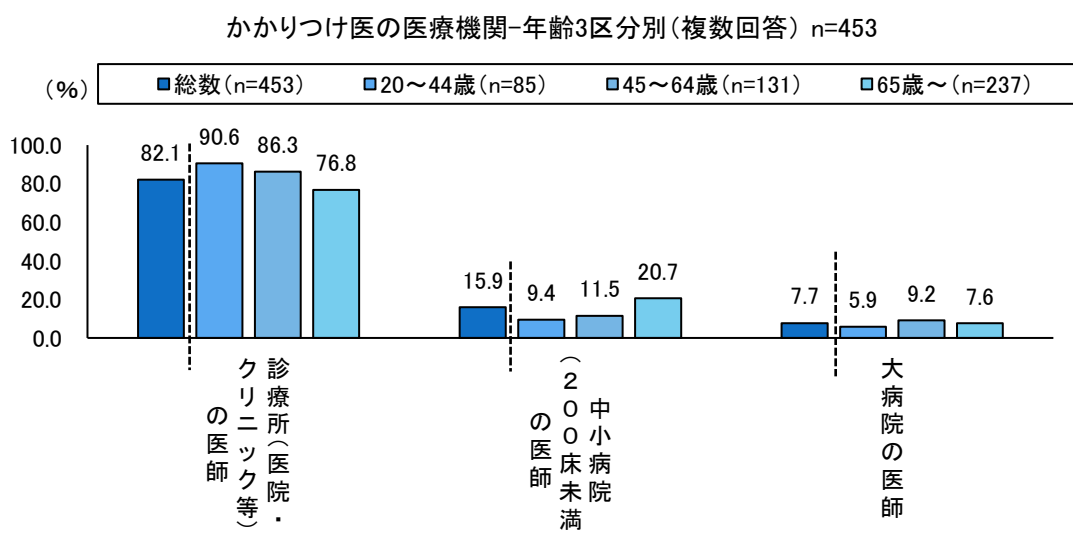
⁸ 調査の際にはかかりつけ医とは、第3回、第4回では「あなたの病気や健康度を総合的に診療してくれる身近な医師」と説明、第5回では「一般に健康のことを何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関へ紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師」と説明、第6回以降は前頁脚注に記載。

⁹ 「第7回日本の医療に関する意識調査」江口成美 出口真弓 日医総研ワーキングペーパー No.448 2020

かかりつけ医の属性

全体の約8割はかかりつけ医が診療所の医師であるとしていた。中小病院、大病院にかかりつけ医がいるとした人はそれぞれ1~2割を占めた。一方、かかりつけ医の診療科も、内科が多数を占めるが、整形外科や外科など多岐にわたっている。かかりつけ医が病院の一般外来の医師の場合、特定の診療科の専門医である場合など、地域住民のニーズに沿った多様なかかりつけ医像が示されている。

図 18 かかりつけ医の医療機関 (n=453)



※かかりつけ医が1人いるとした人は全体の73.1%。2人以上いるとした人は26.9%

表 2 かかりつけ医の診療科 (n=453) 複数回答

	人数	割合
内科	421	92.9
外科	39	8.6
整形外科	57	12.6
婦人科	12	2.6
眼科	50	11.0
小児科	13	2.9
その他	29	6.4
全体	453	100.0

その他は、皮膚科、耳鼻科、泌尿器科、心療内科、脳神経外科、心臓血管外科など

かかりつけ医がいると回答した人のうち、かかりつけ医の人数と診療科の数が一致している453人のみを対象

その医師をかかりつけ医としている理由

かかりつけ医がいる人が、その医師をかかりつけ医としている理由は、「身近で何でも相談できること」、「住まいや職場の近所であること」がそれぞれ 54.7%、54.5%で約半数を占めた（複数回答）。年齢層による違いが大きく、「身近で何でも相談できる」は高齢になるほど割合が高く 65 歳以上では 64.2%、「住まいや職場の近所」は若年層ほど割合が高い傾向があり、20～44 歳以下では 61.6%であった。「現在、以前の主治医」、「必要時に専門医に紹介してくれる」がそれぞれ約 3 割を占めた。

図 19 その医師をかかりつけ医としている理由

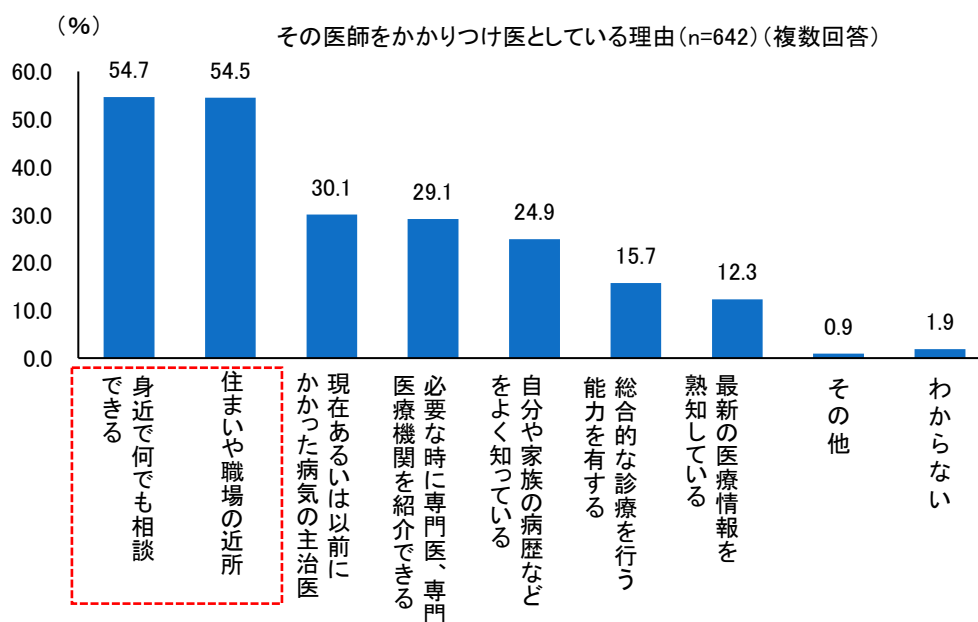
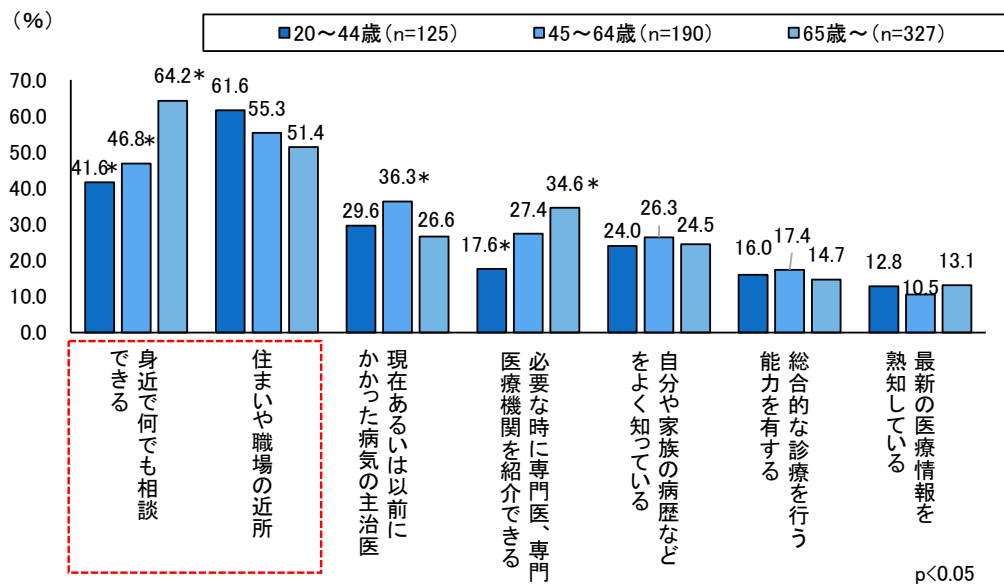


図 20 その医師をかかりつけ医としている理由

その医師をかかりつけ医としている理由(複数回答)-年齢3区分別



3.2. コロナ禍でのかかりつけ医

コロナ禍でかかりつけ医への期待が高まったが、かかりつけ医について必ずしも十分に国民に理解されていないのが現状と推測される。コロナ禍の中で、かかりつけ医についてどのように考えたかを尋ねると、かかりつけ医がない人の間では、「どういう医師がかかりつけ医なのか分からなかった」と回答した人が53.6%を占めた。また、「どういう医師がかかりつけ医になるのか情報が欲しい」と回答した人は約6割(61.3%)を占めた。

一方、かかりつけ医がいる人の間では、「かかりつけ医がいて安心であった」と回答した人が約9割(88.2%)を占め、日頃からかかりつけ医を持つことの重要性を感じた(84.6%)など、かかりつけ医の意義を再確認する契機になったと推測される。

図 21 コロナ禍でかかりつけ医について思うこと (かかりつけ医がない人)

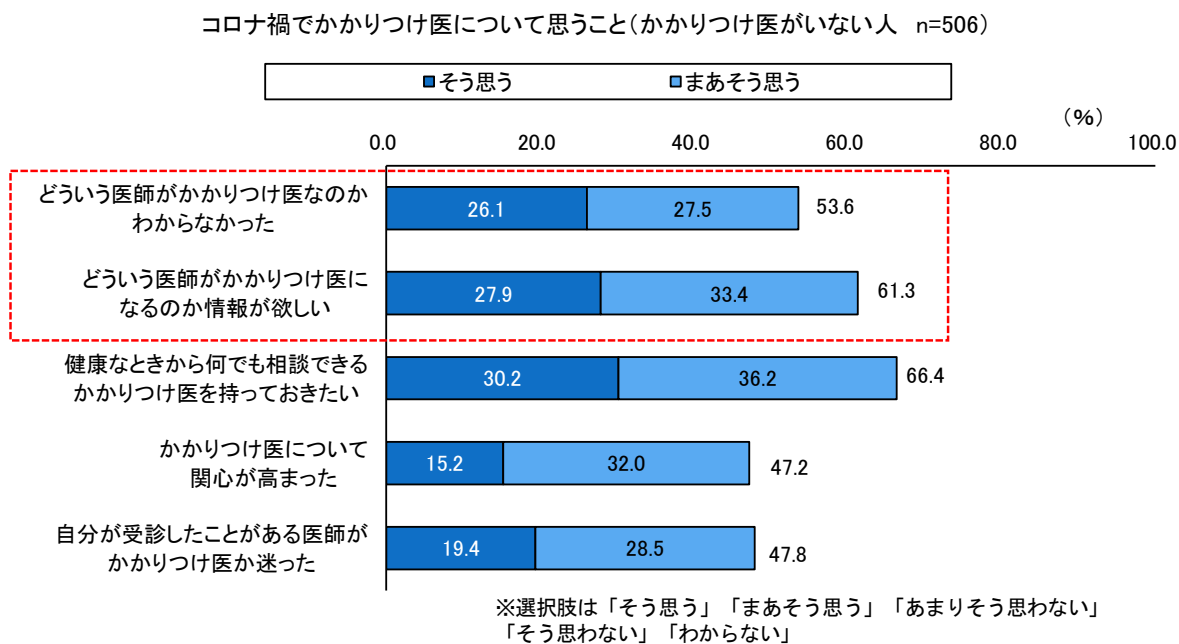
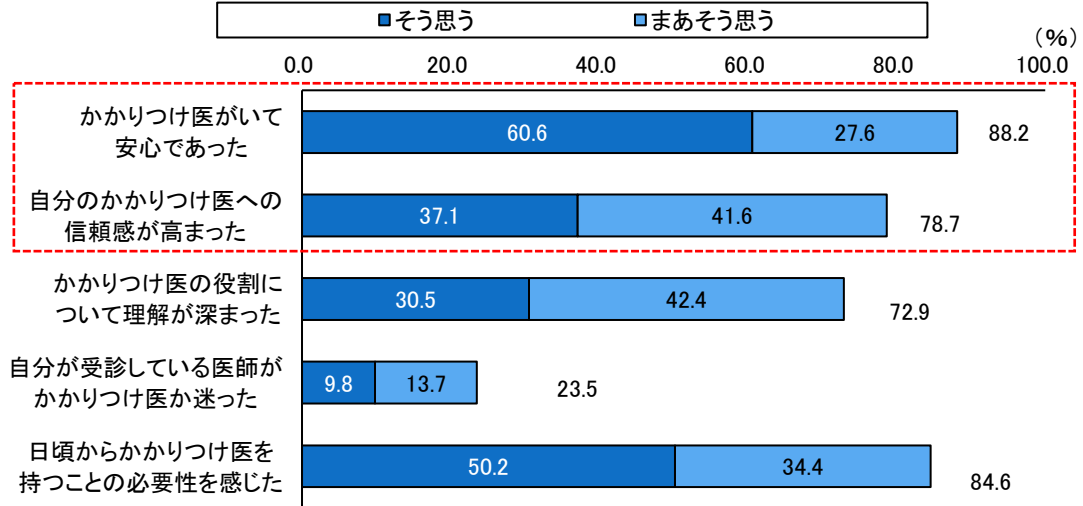


図 22 コロナ禍でかかりつけ医について思うこと（かかりつけ医がいる人）

コロナ禍でかかりつけ医について思うこと(かかりつけ医がいる人 n=642)



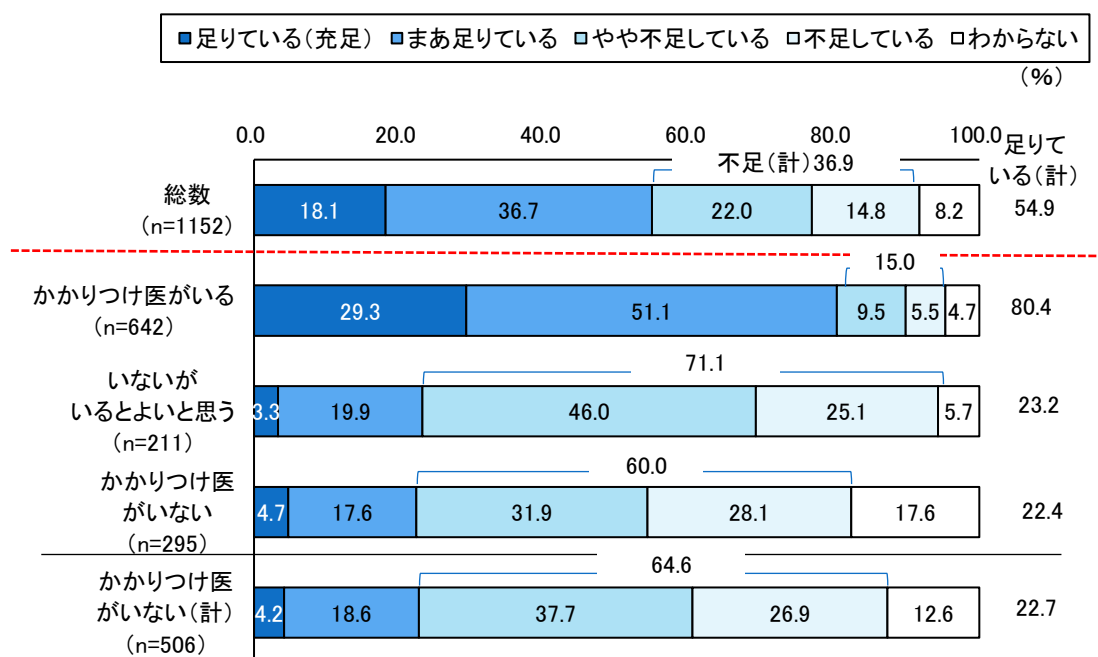
3.3. かかりつけ医に関する情報提供

3.3.1. かかりつけ医に関する情報量の充足度

かかりつけ医に関する情報が足りているか、不足しているかを尋ねると、「かかりつけ医がないがいるとよい」と思う人のうち71.1%が、かかりつけ医に関する情報が不足している（計）と回答し、「かかりつけ医がない人（計）」全体でも64.6%が情報が不足していると回答した。国民の間でのかかりつけ医に関する周知度は必ずしも高くないことから、分かりやすい言葉でかかりつけ医の説明を行い、情報を届けることが求められている。

図 23 かかりつけ医に関する情報の量

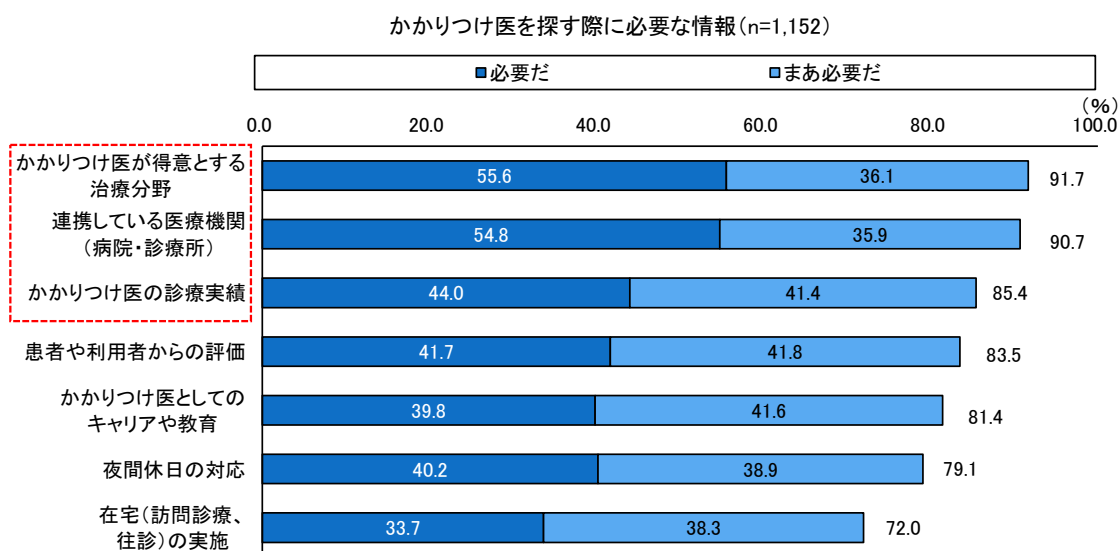
かかりつけ医に関する情報は足りているか-かかりつけ医の有無別



3.3.2. かかりつけ医を探す際に必要な情報

実際にどのような情報が求められているかについては、医療機関の場所、診療時間、スタッフ数など以外に「得意とする治療分野」（91.7%）、「連携医療機関」（90.7%）、「診療実績」（85.4%）がいずれも高い割合を占めた。「かかりつけ医のキャリアや教育」に関する情報が必要と考える人の割合も81.4%であった。必要とされている情報は、基本情報に加えて、個々の医療機関や医師の診療内容などを含む掘り下げた情報であることが示されている。これらの情報については現場のかかりつけ医も協力して、情報提供を行っていくことが重要である。

図 24 かかりつけ医を探す際に必要な情報

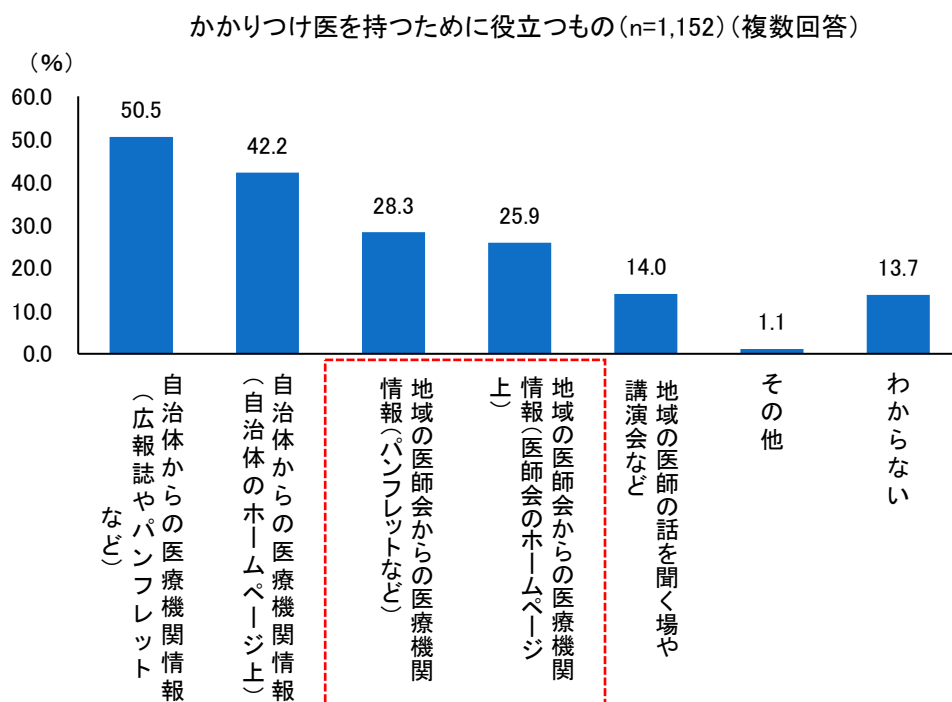


Q2「あなたがかかりつけ医を探す際に、場所、診療時間、スタッフの数など以外に、必要な情報は何か？（現在、かかりつけ医がいる方は、新たにかかりつけ医を探す場合を想定してお答えください。）」（必要だ、まあ必要だ、特に必要ない、わからない）

3.3.3. かかりつけ医を持つために必要な情報源

かかりつけ医を持つために役立つ情報源として、自治体からの情報、地域の医師会からの情報、医師による講演会など、について尋ねると、約半数の人が自治体からの情報を期待していた。また、全体の約4分の1の人は地域の医師会からの情報を期待していた。地域の自治体そして医師会からの情報提供の期待が高く、年齢階層にもよるが、全体として広報誌やパンフレットなどの紙媒体への要望がホームページなどの電子媒体よりも高いことが示されている。

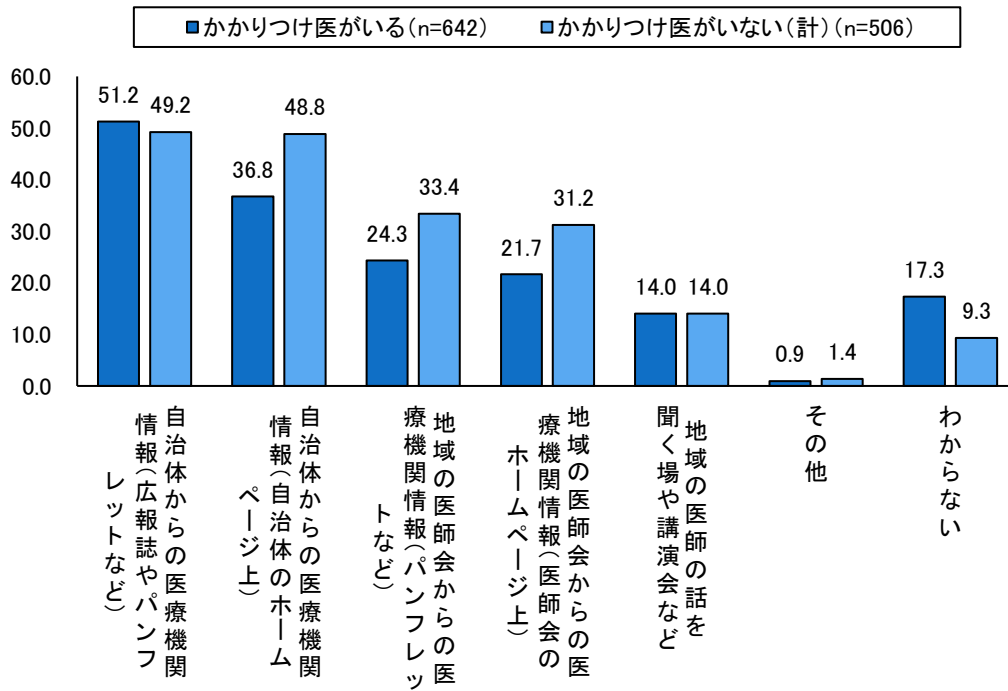
図 25 かかりつけ医を持つために役立つもの



かかりつけ医がない人については、若い世代であることから、自治体のホームページから医療機関情報を求める割合が48.8%と高い割合を占めた。

図 26 かかりつけ医を持つために役立つもの

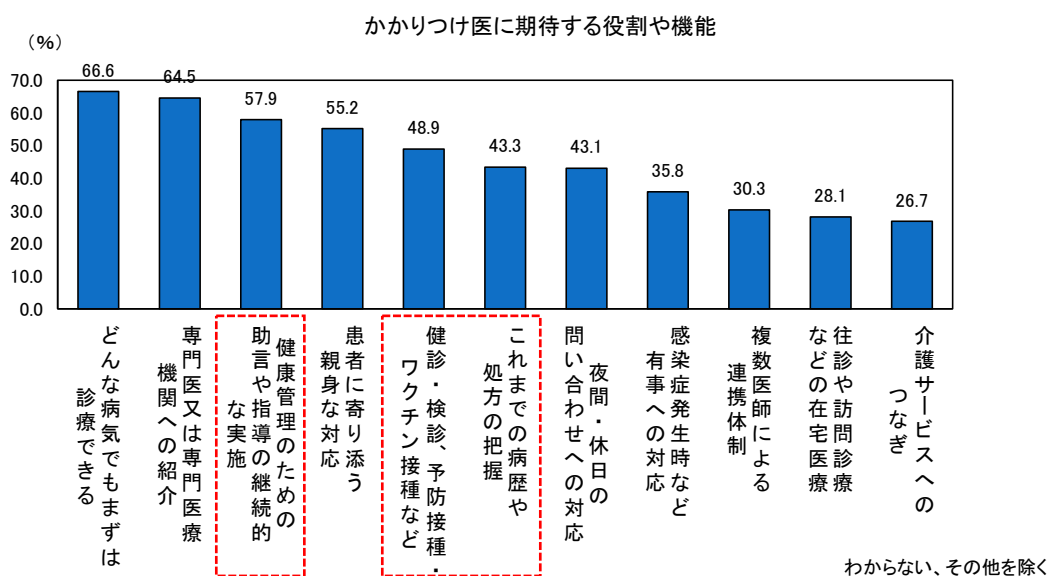
かかりつけ医を持つために役立つもの(複数回答)
-かかりつけ医の有無別



3.4. かかりつけ医に期待する役割・機能

国民がかかりつけ医に望む医療は、「どんな病気でもまずは診療できる」（66.6%）、「専門医・専門医療機関への紹介」（64.5%）、「健康管理のための助言や継続的な指導」（57.9%）が上位3項目であった¹⁰。どんな病気でも診療（相談）でき、専門医に紹介してくれると同時に健康管理を行ってくれる医師を望んでいることが示唆される。また、「予防医療・ワクチン接種」（48.9%）、「病歴・処方薬の把握」（43.3%）への期待も示された。

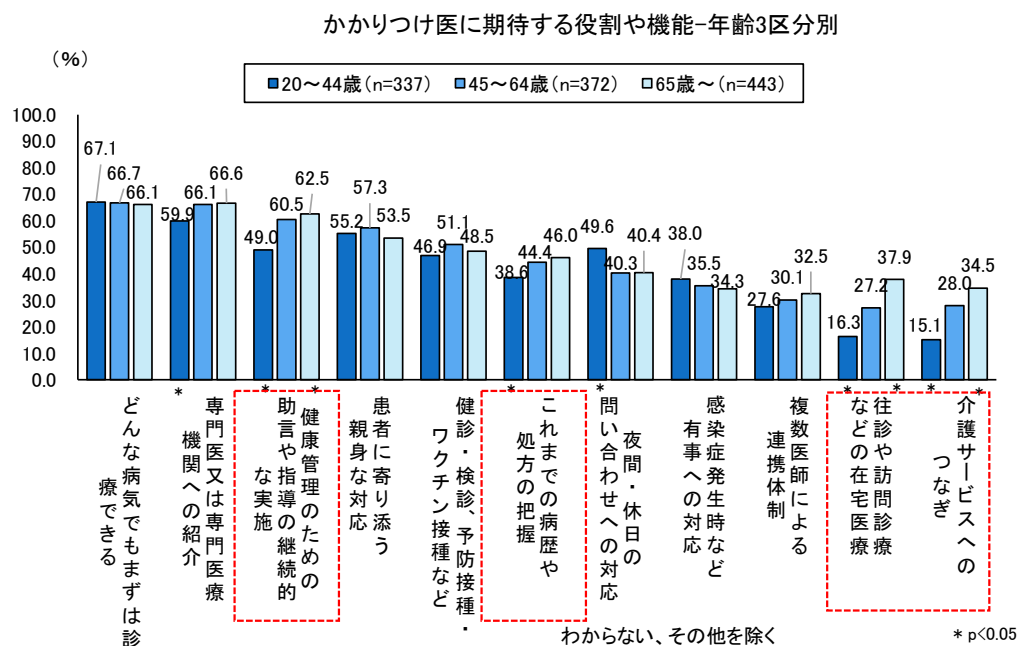
図 27 かかりつけ医に期待する役割や機能 (n=1,212)



¹⁰ 本設問は第7回調査の項目から進化させたが共通項目も持たせた。当該調査の上位4項目は、専門医または専門医療機関への紹介が92.2%、患者情報の適切な提供が87.7%、どのような病気でもまずは診療できるが85.2%、健康生活のための助言・指導が80.1%であった。

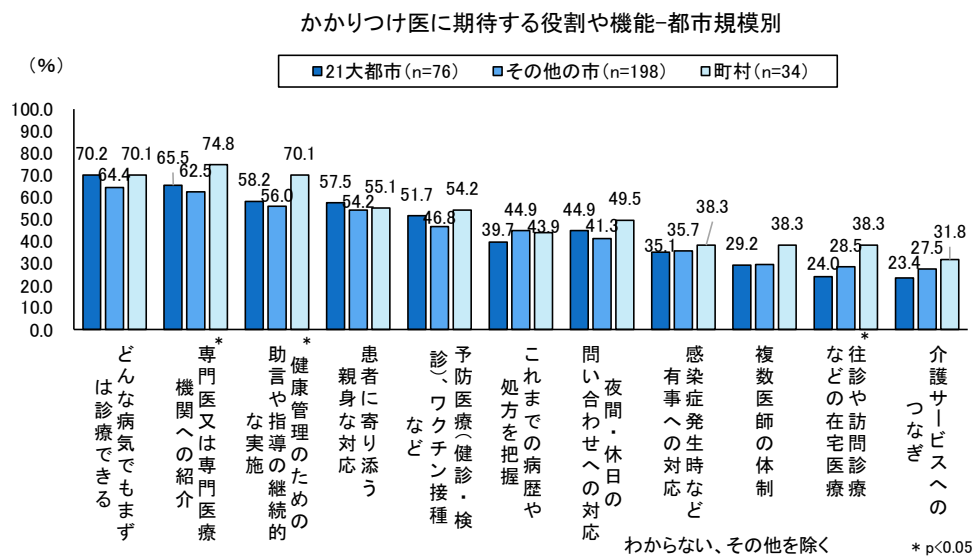
年齢層によってかかりつけ医に期待する役割に違いがある。例えば、65歳以上の年齢層では健康管理、病歴や処方管理、在宅医療、介護サービスへのつなぎへの期待が高いことが示された。また、若い世代では夜間休日への問い合わせ対応への期待が高い。

図 28 かかりつけ医に期待する役割や機能



かかりつけ医に期待する役割や機能は年齢層によって異なることから、地域の人口構成や提供体制の影響で都市規模による違いも示された。

図 29 かかりつけ医に期待する役割や機能



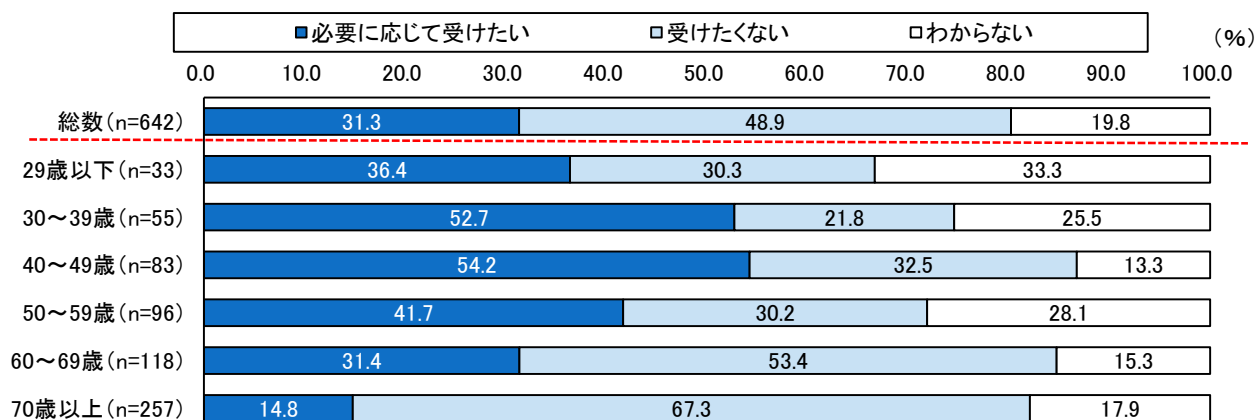
オンライン診療

かかりつけ医がいると回答した人のうち、必要に応じてかかりつけ医からオンライン診療を受けたいかを尋ねると、必要に応じて受けたいと回答した人は全体の31.3%であった。かかりつけ医に限らず、オンライン診療を望む割合とほぼ同じであった。

年齢層によって異なり、30歳代、40歳代ではそれぞれ52.7%、54.2%で半数以上を占めていた。一方で、70歳以上でオンライン診療を希望する割合は14.8%であった。

図 30 オンライン診療

必要に応じてかかりつけ医によるオンライン診療を希望するか
-かかりつけ医がいる人 n=642



医療全般の満足度とかかりつけ医の有無

日本の医療全般への満足度については、全体の18.3%が「満足」、59.5%が「まあ満足」で、全体の77.8%が「満足(計)」であった。第7回調査での割合は76.1%で、ほとんど変化が見られなかった。一方、かかりつけ医がいる人は、いない人に比べてより満足度が高いことも示された。年齢階層別に見ても、かかりつけ医がいる人はいない人よりも高い割合で満足していた。

図 31 医療全般の満足度とかかりつけ医の有無

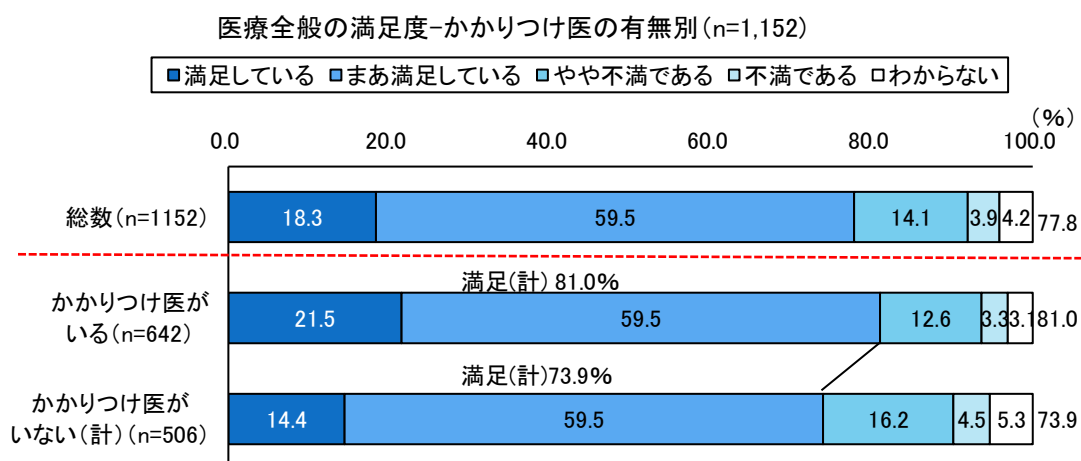
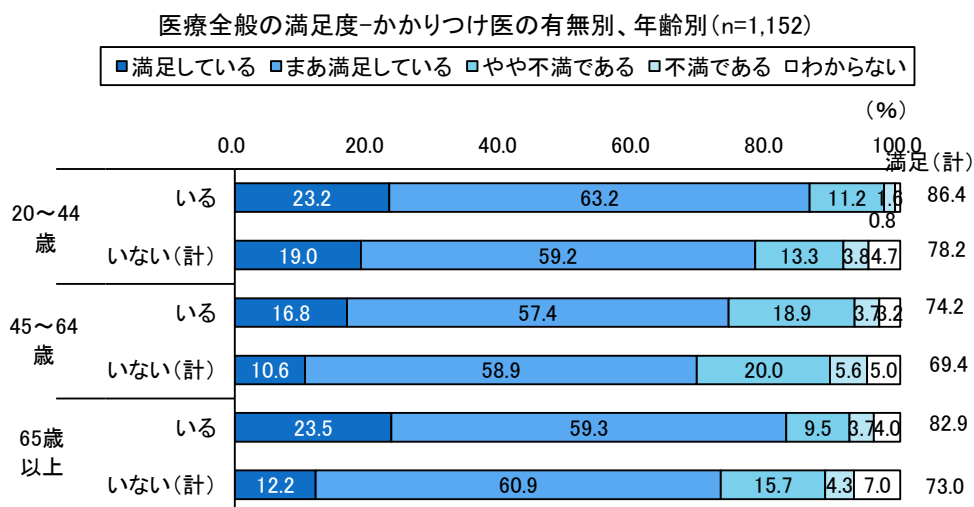


図 32 医療全般の満足度とかかりつけ医の有無 (年齢別)



4. まとめと考察

精神的不調と受診抑制

2年以上にわたる新型コロナウイルス感染症の蔓延でわが国の感染者は843万人、死者は約3万人にのぼり、経済活動、雇用・就業、教育に多大な影響を与え続けてきた。国民全体の生活様式にも大きな変化をもたらした。本調査からも、手洗い・マスクの着用、外出の減少、健康意識の向上、在宅勤務の普及など生活様式の変化が示されている。中でも、不安やストレスを抱える人の増加と精神的不調で専門家への相談を求めるニーズについては、若い世代へのサポートを含めて、社会全体で支援していくことの必要性が示唆された。また、医療機関のコロナ対応による通常医療の縮小や手術や処置の先延ばし、健診・検診の受診抑制の傾向も示され、疾患の重症化など国民の健康への長期的な悪影響が危惧される。有事における地域の医療提供体制の確保は言うまでもなく、コロナ対策を継続して患者の安心感を得ていくとともに、健診・検診の受診については、普段受診していない国民も含めて、さらなる啓発活動が必要と考えられる。

かかりつけ医の普及に向けた情報提供

コロナ禍によってわが国のかかりつけ医の存在がクローズアップされ、本調査からも国民の医療に対する意識が高まったことが示されたが、かかりつけ医がいると回答した人の割合は、過去調査から変化が見られなかった。また、国民にとってのかかりつけ医は医療機関や診療科など多様であること、ニーズに応じてさまざまな機能を果たしていることも示された。そのような中、かかりつけ医が欲しいと思う人がかかりつけ医を持てるように、地域での情報提供を今まで以上に強化していくことが改めて必要と考えられる。特に、かかりつけ医がいないが欲しいと思う人の間で、情報が不足していると答えた人は71.1%にのぼっており、地域住民が必要とする情報を分かりやすく伝えるべきである。

本調査からは、診療時間などの基本情報以外に必要な情報として得意分野、連携医療機関、診療実績などを望む人の割合が高いことも判明した。情報源として自治体からの情報を求める割合は高く、現在稼働している全国都道府県での医療機能情報提供制度のサイト

の充実・活用や、地域での情報提供・普及活動¹¹などを通じて、情報発信を積極的に推進することが喫緊の課題と考えられる。

¹¹ 「かかりつけ医機能の強化に向けた調査研究」（日医総研 WP294 2013 江口成美）の中でかかりつけ医に関する情報提供の好事例（「かまた医療ブック」、現在は「おおた医療ブック」）を紹介している。

5. その他の結果

5.1. かかりつけ医に対するイメージ

国民が抱くかかりつけ医に対するイメージ（かかりつけ医像）を自由記述で尋ねた。類似の回答を分類し、キーワードを用いて分析すると、「相談しやすい・話しやすい」、「信頼している」、「安心」が高い割合で示された。これらは、国民がかかりつけ医に期待するイメージであり、信頼関係の構築が重要であることを示唆している。

表 3 かかりつけ医に対するイメージ（かかりつけ医像）（自由記述）

カテゴリ	キーワード	件数	割合
関係性・人間性	相談しやすい・話しやすい	246	30.3
	信頼している・信用している	134	16.5
	安心	121	14.9
	親身・親切・寄り添う	68	8.4
	気軽・気楽	49	6.0
	親しみ・身近	43	5.3
	人間性	27	3.3
	自分のことを理解してくれる	22	2.7
かかり方	いつもかかる	41	5.1
	病気の時にかかる	13	1.6
	定期的にかかる	10	1.2
役割	病歴の把握	67	8.3
	夜間休日の対応	37	4.6
	助言と説明	27	3.3
	体調管理・健康管理・予防接種・健診	19	2.3
	連携・紹介	16	2.0
	医療へのファーストアクセス	18	2.2
家族・高齢者	家族全員のかかりつけ医	11	1.4
	高齢者が必要とする医者	7	0.9
近所・地元	近所	44	5.4
	地域密着	9	1.1
その他	良い・満足・感謝・ありがたい	33	4.1
	必要な存在	8	1.0
	(いないよりは)いる方がいい	12	1.5
	(そもそも)かかりつけ医とは？	4	0.5
	必要ない	3	0.4
ネガティブ	その他	22	2.7
	ネガティブ	12	1.5
	全体	811	100.0

5.2. 【参考】母集団との比較

本調査の回答者と母集団の比較は以下となる。

図 33 男女比

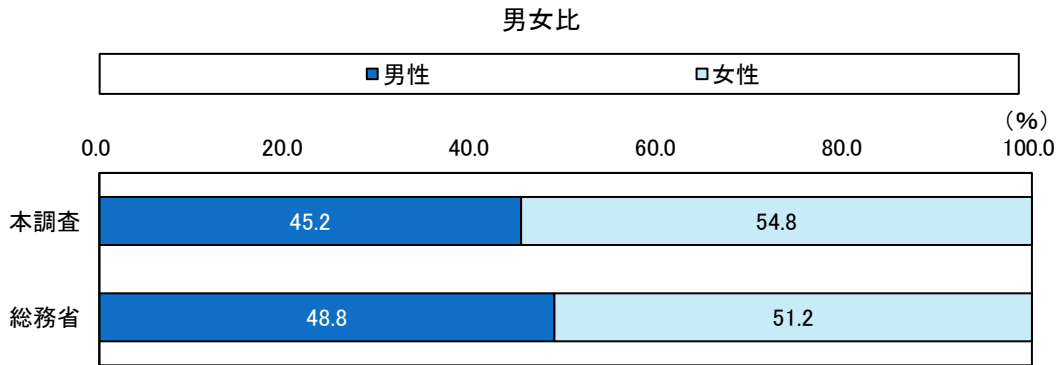


図 34 年齢構成

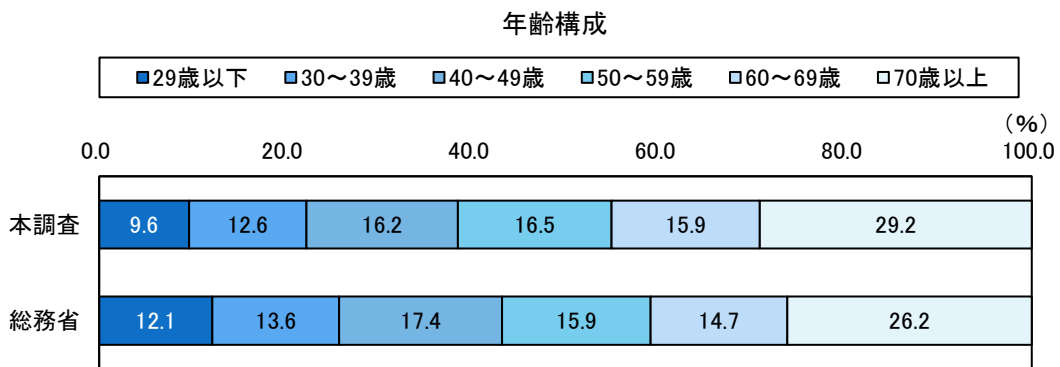
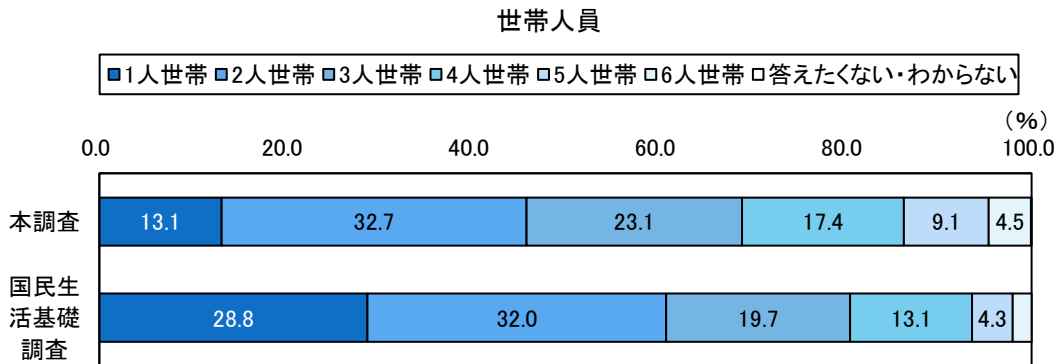


図 35 世帯人員



調査の制約

アンケート調査の限界であるが、調査対象者には高齢者施設などに居住されている方、低所得層の方、疾患を抱える高齢者の方、経済・健康面で厳しい状況にある方などは含まれていない。従ってこれらの方々を含む一定割合の国民の意識は調査結果に反映されていない。次に、本調査では1回目調査より面接手法を採用している。一般に、アンケートの調査手法にはそれぞれに短所・長所があるが、面接調査においては回答者に偏りがあることは否めない。本調査においても、医療に対して一定の理解がある回答者の割合が高いことが推測される。

6. 添付資料 調査票と単純集計

F 1. (職 業) あなたの職業をお聞かせください。

1.1	13.1	20.6	21.5	2.2	23.1	2.8	15.6
農林漁業 (家族従業 を含む)	商工・サービス業 (家族従業を 含む)	事務職	労務職	自由業 管理職	専 業 主 婦 (夫)	学 生	無 職

F 2. (性)

45.2	54.8
男 性	女 性

F 3. (年 齢)

55.9 歳

F 4. (教 育) 学校はどこまで行きましたか。

7.0	49.0	41.6	2.3
(新) 中 学 (旧) 小・高小	(新) 高 校 (旧) 中 学	(新) 短大・大学 (旧) 高 専 大	大 学 院

不明 0.2

次に、かかりつけ医についておうかがいします。

Q 1. [回答票 41] かかりつけ医とは、「何でも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要なときには専門医を紹介でき、身近で頼りになる総合的な能力を有する医師」のことで、あなたには、かかりつけ医がいますか。この中から1つだけお答えください。

- 55.7 (ア) いる
 18.3 (イ) いないがいるとよいと思う → (次ページSQ2へ)
 25.6 (ウ) いない
 0.3 わからない → (次ページQ2へ)

【SQ1の(1)～(5)は、Q1で「1(かかりつけ医がいる)」と答えた人に】

SQ1. あなたのかかりつけ医についてお聞きします。

(1) [回答票 42] あなたがその医師をかかりつけ医としている理由はなぜですか。この中からあてはまるものをすべてお答えください。(M. A.)

- 54.7 (ア) 身近で何でも相談できる
 12.3 (イ) 最新の医療情報を熟知している
 29.1 (ウ) 必要な時に専門医、専門医療機関を紹介できる
 15.7 (エ) 総合的な診療を行う能力を有する
 54.5 (オ) 住まいや職場の近所
 30.1 (カ) 現在あるいは以前にかかった病気の主治医
 24.9 (キ) 自分や家族の病歴などをよく知っている
 0.9 (ク) その他(具体的に)
 1.9 わからない

(2) あなたにとっての「かかりつけ医」は何人いますか。(※n=453で集計 21ページ参照)

- 73.1 1人
 26.9 2人以上

(3) [回答票 43] あなたのかかりつけ医は診療所の医師ですか、病院の医師ですか。(※n=453で集計) 「かかりつけ医」が2人以上いる場合は、あてはまるものをすべてお答えください。(M. A.)

- 82.1 (ア) 診療所(医院・クリニック等)の医師
 15.9 (イ) 中小病院(200床未満)の医師
 7.7 (ウ) 大病院の医師
 0.4 わからない

(4) [回答票 44] そのかかりつけ医はどの診療科の医師ですか。あてはまるものをすべてお答えください。(M. A.) (※n=453で集計)

- 92.9 (ア) 内科
 8.6 (イ) 外科
 12.6 (ウ) 整形外科
 2.6 (エ) 婦人科
 11.0 (オ) 眼科
 2.9 (カ) 小児科
 6.4 (キ) その他(具体的に)
 0.0 わからない

(5) [回答票 45] コロナ禍の中で、自治体などからかかりつけ医の医療機関などでのワクチン接種や検査・診療が呼びかけられました。あなたは、かかりつけ医についてどのように考えましたか。ここにあげた(1)～(5)について、最もあてはまるものをそれぞれ1つずつお答えください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
	そう思う	まあ そう思う	あまりそう思 わない	そう 思わない	わから ない
(1) かかりつけ医がいて安心であった	60.6	27.6	5.9	3.9	2.0
(2) 自分のかかりつけ医への信頼感が高まった	37.1	41.6	13.9	3.9	3.6
(3) かかりつけ医の役割について理解が深まった	30.5	42.4	17.8	4.4	5.0
(4) 自分が受診している医師がかかりつけ医か迷った	9.8	13.7	28.5	42.1	5.9
(5) 日頃からかかりつけ医を持つことの必要性を感じた	50.2	34.4	7.9	4.5	3.0

【SQ2は、Q1で「2～3（かかりつけ医がない）」と答えた人に】

SQ2. [回答票46] コロナ禍の中で、自治体などからかかりつけ医の医療機関などでのワクチン接種や検査・診療が呼びかけられました。あなたは、かかりつけ医についてどのように考えましたか。ここにあげた(1)～(7)について、最もあてはまるものをそれぞれ1つずつお答えください。

	(ア) そう思う	(イ) まあ そう思う	(ウ) あまりそう思 わない	(エ) そう 思わない	わから ない
(1) どういう医師がかかりつけ医なのか わからなかった(わからない) …… →	26.1	27.5	14.8	26.1	5.5
(2) どういう医師がかかりつけ医に なるのか情報が欲しい …… →	27.9	33.4	18.2	16.6	4.0
(3) 健康なときから何でも相談できる かかりつけ医を持っておきたい …… →	30.2	36.2	20.4	9.7	3.6
(4) かかりつけ医について関心が高まった …… →	15.2	32.0	33.2	15.2	4.3
(5) かかりつけ医の役割について理解が深まった …… →	9.3	33.4	37.0	14.0	6.3
(6) 自分が受診したことがある医師が かかりつけ医か迷った …… →	19.4	28.5	23.1	22.7	6.3
(7) 日頃からかかりつけ医を持つことの必要性を感じた →	20.2	40.1	22.5	11.9	5.3

【全員に】

Q2. かかりつけ医やかかりつけ医の医療機関に関する情報についてお聞きします。現在、かかりつけ医がいる方は、新たにかかりつけ医を探す場合を想定してお答えください。

(1) [回答票47] あなたがかかりつけ医を探す際に、場所、診療時間、スタッフの数など以外に、必要な情報は何か。(1)～(7)について、最もあてはまるものをそれぞれ1つずつお答えください。

	(ア) 必要だ	(イ) まあ必要だ	(ウ) 特に必要ない	わから ない
(1) かかりつけ医の診療実績 …… →	44.0	41.4	12.2	2.3
(2) かかりつけ医が得意とする治療分野 →	55.6	36.1	6.7	1.6
(3) かかりつけ医としてのキャリアや教育 →	39.8	41.6	15.7	2.9
(4) 夜間休日の対応 …… →	40.2	38.9	18.0	3.0
(5) 連携している医療機関 …… →	54.8	35.9	7.3	2.0
(6) 在宅医療(訪問診療、往診)の実施 →	33.7	38.3	25.4	2.6
(7) 患者や利用者からの評価 …… →	41.7	41.8	13.8	2.7

(2) [回答票48] かかりつけ医に関する情報は足りていますか、足りていないですか。
この中から1つだけお答えください。

18.1	36.7	22.0	14.8	8.2
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
足りている (充足)	まあ 足りている	やや 不足している	不足 している	わから ない

(3) [回答票49] 健康なときからかかりつけ医を持っておくために、何があるとよいと思いますか。
あてはまるものをすべてお答えください。(M. A.)

- 50.5 (ア) 自治体からの医療機関情報(広報誌やパンフレットなど)
- 42.2 (イ) 自治体からの医療機関情報(自治体のホームページ上)
- 28.3 (ウ) 地域の医師会からの医療機関情報(パンフレットなど)
- 25.9 (エ) 地域の医師会からの医療機関情報(医師会のホームページ上)
- 14.0 (オ) 地域の医師の話聞く場や講演会など
- 1.1 その他(具体的に)
- 13.7 わからない

Q 3. [回答票 50] あなたは、かかりつけ医にどのような役割や機能を期待しますか。あてはまるものを、この中からすべてお答えください。(M. A.)

- 66.6 (ア) どんな病気でもまずは診療できること
- 57.9 (イ) あなたの健康管理のための助言や指導を継続的に行うこと
- 64.5 (ウ) 専門医又は専門医療機関への紹介
- 43.3 (エ) あなたのこれまでの病歴や処方をすべて把握していること (一元的に管理)
- 43.1 (オ) 夜間・休日の問い合わせへの対応
- 30.3 (カ) 複数医師の体制 (かかりつけ医が不在の時などに連携した別の医師が対応する体制)
- 48.9 (キ) 予防医療 (健診・検診)、ワクチン接種などの実施
- 28.1 (ク) 往診や訪問診療などの在宅医療
- 26.7 (ケ) 介護サービスへのつなぎ
- 35.8 (コ) 感染症発生時など有事への対応
- 55.2 (サ) 患者に寄り添う親身な対応
- 0.3 その他 (具体的に)
- 2.1 わからない

Q 4. [回答票 51] 医療機関の受診のあり方として、次のAとBの2つの考え方について議論されています。あなたはどちらに賛成しますか。この中から1つだけお答えください。

- A 病気の程度にかかわらず、自分の判断で選んだ医療機関を受診する
- B 最初にかかりつけ医など決まった医師や医療機関を受診し、その医師の判断で必要に応じて専門医療機関を紹介してもらい受診する

- 16.9 (ア) Aの意見に賛成である
- 9.5 (イ) どちらかといえばAの意見に賛成である
- 38.3 (ウ) どちらかといえばBの意見に賛成である
- 31.9 (エ) Bの意見に賛成である
- 3.4 どちらともいえない・わからない

次に、新型コロナについておうかがいします。

Q 5. [回答票 52] あなたの新型コロナワクチンの接種状況についておたずねします。1回目から3回目までの接種の有無や予定について、あてはまるものをそれぞれ1つずつお答えください。

	(ア) 接種した	(イ) 今後接種 する予定	(ウ) 接種する 予定なし	わからない
(1) 1回目接種	91.9	1.3	6.4	0.3
(2) 2回目接種	99.2	0.5	0.4	0.0
(3) 3回目接種	45.4	44.6	6.3	3.7

【調査員注】1回目接種が「(ア) 接種した」ではない(まだ1回も接種していない)場合、18 ページE 6 へ。

【SQ 1 の (1) ~ (2) は、Q 5 (1) で「1 (1回目を接種した)」と答えた人に】

【1回目の接種をしていない場合、18 ページQ 6 へ】

SQ 1. 1回目のワクチンを接種した場所についておたずねします。

(1) [回答票 53] 1回目のワクチン接種ではどこで接種することを希望しましたか。この中から1つだけお答えください。

- 26.7 (ア) かかりつけ医のいる医療機関
- 23.6 (イ) 自治体からの医療機関リストから選択した医療機関
- 6.1 (ウ) その他の医療機関
- 22.1 (エ) 地域の集団接種会場
- 7.1 (オ) 大規模接種会場
- 11.8 (カ) 職域接種会場
- 0.0 (キ) 自宅など
- 0.9 (ク) その他(具体的に)
- 1.6 わからない

(2) [回答票 53] では、実際にはどこで接種しましたか。この中から1つだけお答えください。

- 22.9 (ア) かかりつけ医のいる医療機関
- 22.2 (イ) 自治体からの医療機関リストから選択した医療機関
- 7.1 (ウ) その他の医療機関
- 26.3 (エ) 地域の集団接種会場
- 8.9 (オ) 大規模接種会場
- 12.2 (カ) 職域接種会場
- 0.0 (キ) 自宅など
- 0.2 (ク) その他(具体的に)
- 0.3 わからない

【SQ2の(1)～(2)は、Q5(2)で「1(2回目を接種した)」と答えた人に】

【2回目の接種をしていない場合、次ページQ6へ】

SQ2. 2回目のワクチンを接種した場所についておたずねします。

(1) [回答票53] 2回目のワクチン接種ではどこで接種することを希望しましたか。

- 25.1 (ア) かかりつけ医のいる医療機関
- 23.8 (イ) 自治体からの医療機関リストから選択した医療機関
- 6.8 (ウ) その他の医療機関
- 23.1 (エ) 地域の集団接種会場
- 7.3 (オ) 大規模接種会場
- 11.8 (カ) 職域接種会場
- 0.0 (キ) 自宅など
- 0.5 (ク) その他(具体的に)
- 1.5 わからない

(2) [回答票53] では、実際にはどこで接種しましたか。

- 22.6 (ア) かかりつけ医のいる医療機関
- 22.4 (イ) 自治体からの医療機関リストから選択した医療機関
- 7.3 (ウ) その他の医療機関
- 25.5 (エ) 地域の集団接種会場
- 9.0 (オ) 大規模接種会場
- 12.0 (カ) 職域接種会場
- 0.0 (キ) 自宅など
- 0.2 (ク) その他(具体的に)
- 1.0 わからない

【SQ3の(1)～(2)は、Q5(3)で「1(3回目を接種した)」と答えた人に】

【3回目の接種をしていない場合、次ページQ6へ】

SQ3. 3回目のワクチンを接種した場所についておたずねします。

(1) [回答票53] 3回目のワクチン接種ではどこで接種することを希望しましたか。

- 33.8 (ア) かかりつけ医のいる医療機関
- 25.2 (イ) 自治体からの医療機関リストから選択した医療機関
- 5.5 (ウ) その他の医療機関
- 18.2 (エ) 地域の集団接種会場
- 6.5 (オ) 大規模接種会場
- 8.8 (カ) 職域接種会場
- 0.2 (キ) 自宅など
- 0.4 (ク) その他(具体的に)
- 1.5 わからない

(2) [回答票53] では、実際にはどこで接種しましたか。

- 31.0 (ア) かかりつけ医のいる医療機関
- 23.5 (イ) 自治体からの医療機関リストから選択した医療機関
- 6.9 (ウ) その他の医療機関
- 20.5 (エ) 地域の集団接種会場
- 7.5 (オ) 大規模接種会場
- 9.2 (カ) 職域接種会場
- 0.2 (キ) 自宅など
- 0.2 (ク) その他(具体的に)
- 0.8 わからない

【全員に】

Q 6. [回答票 54] 新型コロナの流行により、あなたの生活全般にどのような変化が生じましたか。
あてはまるものをすべてお答えください。(M. A.)

- 93.4 (ア) 手洗い、うがい、マスク着用など衛生面に気を付けるようになった
- 39.0 (イ) 自身の健康に対する意識(食事や運動など)が高まった
- 23.5 (ウ) 仕事のやり方が変わった(在宅勤務やオンライン会議、時差通勤など)
- 41.6 (エ) 外出や人との交流が減って、精神的不調やストレスを感じるようになった
- 21.9 (オ) 運動不足で体の不調を感じるようになった
- 33.2 (カ) 家族の重要性をより感じるようになった
- 39.5 (キ) 医療・保健の重要性を感じるようになった
- 46.3 (ク) 感染症やワクチンなど医学への関心が高まった
- 13.4 (ケ) 収入(家計)の減少で生活が苦しくなった
- 2.3 (コ) 特に変化はなかった
- 0.7 その他(具体的に)
- 0.5 わからない

Q 7. [回答票 55] 新型コロナの発生後、以前からかかっていた医療機関などにおいて、今まで通りに外来受診や検査ができなかったり、入院ができなかったりなど、通常の医療を受けづらくなったことがありましたか。

6.2	11.5	80.7	1.6
(ア)	(イ)	(ウ)	
ある	少しある	ない	わからない

Q 8. [回答票 56] 新型コロナの発生後、緊急性が低い手術や処置が延期になったことがありましたか。

- 1.2 (ア) 手術や処置が延期になったことがある
- 4.6 (イ) 手術や処置は延期にならなかった
- 92.7 (ウ) そもそも手術や処置の予定がなかった
- 1.5 わからない

Q 9. [回答票 57] コロナ禍の過去2年間、あなたががん検診や健診を受診した頻度は、コロナ前に比べて変化がありましたか。

9.5	67.9	0.4	21.8	0.3
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
回数を減らした	今までと変わらない	回数を増やした	普段から受診していない	わからない

Q10. [回答票 58] あなたはコロナ禍でひどく気分がふさがちになったり、憂鬱な気持ちが強くなったりして、専門家などに相談したいと思ったことがありましたか。

1.8	15.5	82.5	0.2
(ア)	(イ)	(ウ)	
ある	少しある	ない	わからない

Q11. [回答票 59] あなたは今後、必要に応じてオンライン診療を受けたいと思いますか。オンライン診療とは、スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器を用いて、インターネットの画面越しに自宅で医師の診察や薬の処方などをリアルタイムで受ける診療です。

31.8	44.4	23.8
(ア)	(イ)	(ウ)
必要に応じて受けたい	受けたくない	わからない

【Q12は、Q1で「1（かかりつけ医がいる）」と答えた人に】

Q12. [回答票 59] では、あなたのかかりつけ医と、必要に応じて、オンライン診療を受けたいと思いますか。

31.3 (ア) 必要に応じて受けたい	48.9 (イ) 受けたくない	19.8 (ウ) わからない
----------------------------------	------------------------------	-----------------------------

【全員に】

Q13. 将来、たとえば1年後から数年後において、新型コロナが収束したとき、あなたご自身の医療機関への受診のしかたや頻度は、新型コロナ前と比べて変わると思いますか、それとも変わらないと思いますか。

11.6 変わると思う	83.2 変わらないと思う	5.1 わからない
-----------------------	-------------------------	---------------------

Q14. [回答票 60] あなたは日本の医療全般について満足していますか。この中から1つだけお答えください。

18.3 (ア) 満足している	59.5 (イ) まあ満足している	14.1 (ウ) やや不満である	3.9 (エ) 不満である	4.2 わからない
------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	----------------------------	---------------------

Q15. [回答票 61] あなたの現在の健康状態はいかがですか。この中から1つだけお答えください。

30.5 (ア) よ い	30.5 (イ) まあよい	31.9 (ウ) ふつう	6.3 (エ) あまりよくない	0.4 (オ) よくない	0.5 わからない
---------------------------	----------------------------	---------------------------	------------------------------	---------------------------	---------------------

Q16. あなたを含めて、と一緒に暮らしているかたは合計で何人いらっしゃいますか。

あなたを含めて	<table border="1"><tr><td>2.9</td></tr></table>	2.9	人	13.1 一人暮らし	0.1 答えたくない・わからない
2.9					

Q17. あなたにとって「かかりつけ医」とはどのようなイメージですか。「かかりつけ医」に対するイメージを、ご自由にお答えください。(O. A.)

()	70.4 回答あり
()	29.6 回答なし